



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

口腔がん診療の充実をめざして

口腔腫瘍外科 科長 嶋根 俊和

昭和大学歯科病院口腔腫瘍外科は、口腔癌、口腔内の良性腫瘍を中心に診療を重ねております。そして昭和大学歯科病院頭頸部腫瘍センターと昭和大学病院頭頸部腫瘍センターはスタッフが両病院を行き来しており密な連携をとりながら診療に当たっております。このたび2015年5月13日昭和大学病院頭頸部腫瘍センター外来が完成し、これまで外来診療に制限がございましたが連日初診患者さんを診療できるようになりました。また昭和大学病院頭頸部腫瘍センターでは、歯科診療ユニット、耳鼻咽喉科診療ユニット、超音波検査装置、電子内視鏡4台が設置されており口腔外科的診療、頭頸部外科的診療が同時に行えるようになりました。この外来では口腔リハビリテーション科との連携もあり術前、術後のリハビリテーションもできるようになりました。

昭和大学歯科病院での口腔腫瘍外科の診療は、現在週3回ですが、顎顔面口腔外科部門と連携しておりますので腫瘍の患者さんの診療は開院日ならば可能となっております。歯科病院の口腔腫瘍外科でも電子内視鏡1台、超音波検査装置1台が設置されており腫瘍の診断がスムーズにできるようになっております。症例により入院、手術に関しては昭和大学病院頭頸部腫瘍センターで行うことも多くなっております。

このように新設された診療科というだけではなく、医学部、歯学部そして他職種を含めたそして両病院にまたがる新たなシステム、言い換えれば昭和大学の目指すチーム医療を第一線で実現しているセンターであります。このセンターの立ち上げには顎顔面口腔外科学部門、耳鼻咽喉

科学講座の全面的なバックアップのほか、形成外科学講座、口腔リハビリテーション医学部門、口腔病理学部門、歯科麻酔科学部門などさまざまな先生方にご協力をいただいております。このセンターが全国的にもモデルとなるように発展させていくために今後も努力をしていきたいと思っております。そして何より患者さんのためにこれまでの歯科だけの治療、耳鼻咽喉科だけの治療ではなく、両方の優れている点を前面に打ち出し診療を進めていきたいと考えております。皆様方も今後の昭和大学頭頸部腫瘍センターの発展に期待していただければと思っております。



昭和大学歯科病院 頭頸部腫瘍センター
(口腔腫瘍外科) 外来

口腔腫瘍外科 紹介

昭和大学歯科病院で口腔腫瘍外科の診療が始まって9か月ほど経過しました。当初は私も含め3名でありましたが、現在教授1名、講師1名、助教1名、員外助教1名、臨床研修医1名の5名となりました。そして歯学部5年生の臨床実習生2～3名、歯学部6年生の選択実習生が週1回2～3名がローテーションで実習に来ますので当初よりにぎやかな環境となりました。

症例に関しても着々と増加しており、昭和大学病院での手術日は木曜日だけでしたが、手術室や耳鼻咽喉科のおかげで水曜日、金曜日も手術を行っている状態が続いています。喜ばしいことなのか、困ったことなのかよくわからない状態ですが、何とか枠を見つけて手術を行っています。また5月13日には昭和大学病院頭頸部腫瘍センター外来が開設され、連日外来診療を行えるようになりますのでさらに症例数の増加が予想されます。特に口腔癌の症例は、昭和大学江東豊洲病院、横浜市北部病院、藤が丘病院、関東労災病院などからも紹介されていますので十分な症例数が集まっています。これは我々のスキルアップだけでなく、周術期口腔機能管理の面、口腔リハビリテーション、口腔病理学、研修医、学生にも大変ですがいい影響を与えているものと思っています。

現在は耳鼻咽喉科、口腔腫瘍外科の得意な部分を尊重し、それぞれの欠点を補い安全、確実、低侵襲な治療を行い、口腔ケア、口腔リハビリテーションをしっかりと組み合わせることにより患者さんのQOLを重視した治療を行っています。

ご存知のとおり昭和大学は医系総合大学であり、学生の時から医、歯、薬、保健医療学部が寮生活、連携実習などを組み入れて教育を行っています。口腔腫瘍外科では頭頸部腫瘍センターを通じ教育の面でも学生、臨床研修医に対して、医療系総合大学の特徴を生かし、他の大学、医

療機関とは一味違った教育をしております。昭和大学だからできる、そして昭和大学にしかできない医師、歯科医師、他職種でのチーム医療による頭頸部腫瘍の診療、教育を行い発展させてまいります。

頭頸部腫瘍の治療にも、耳鼻咽喉科、口腔外科、形成外科、口腔リハビリテーション科、口腔ケアセンター、他職種によるトータルケアが必要と考えられます。昭和大学歯科病院頭頸部腫瘍センター(口腔腫瘍外科)では、患者さんそれぞれに適した最善の医療を提供してまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

口腔腫瘍外科 科長 嶋根 俊和



新しい企画として、今月号より歯科医師紹介ページの掲載を始めました。第1号は美容歯科の玉岡先生です。

歯科病院広報委員長 高橋 浩二

私は、昭和大学歯学部を卒業し、旧保存修復科大学院を経て、現在の美容歯科に入局し、12年間程診療に携わってきています。

普段から科学的根拠に基づいた、患者さんに常に寄り添った治療をポリシーとしています。どうして虫歯になったのか？今後どのようにしていったら良いのか？など、より良い口腔内環境を目指して患者さんと一緒に考えていく事を心掛けています。

患者さんは誰も口腔内が健康的であり、さらに視覚的にも美しく保たれることを望んでいます。しかし現実には、加齢、環境変化、疾患などにより、理想とする見た目や口腔内環境と多少なりともギャップを感じていることがほとんどです。そこで、私は、患者さんそれぞれの理想とする口腔内に少しでも近づかせる事ができるように日々診療にあたっております。例えば、見た目を美しくするホワイトニング、マニキュア、ガムピーリング、セラミック修復(CAD/CAM)や、またMinimal Intervention(MI)を考慮したコンポジットレジン修復を行っております。特にコンポジットレジン修復においては、う蝕(虫歯)による欠損にただ単に充填するのではなく、より歯と区別がつかないような形態や色調を目指して、修復できるよう心掛けております。

趣味は体を動かす事で、大会に参加したりジムに行ったりして汗を流してリフレッシュしたり、時には年に1度ですがトライアスロンにも出場したりしています。実は治療もトライアスロンと似ている部分があるかと思えます。ペース配分が大事であり、一気に走りすぎると後半ばててしまうように、患者さんの予防に対する意識が高まっていないのに、治療を闇雲に行っても決してゴールにたどり着く事はあ

りません。つまり、患者さんに予防を理解してもらわずに治療を始めると、結果治療の繰り返しになってしまうということです。

治療中は、必ず患者さんの立場にたち、望んでいる治療内容、口腔内はどういったものかを親身になって相談を受けるようにしており、ただ治すだけではなく、さらに美しく保つ事をサポートしていくことも歯科医師としての使命だと感じております。長期的な予後を見込んでの予防を第一とした口腔内全体の治療計画立案もこれからは大切であると考えています。

これからも、口腔内の健康+美しさを患者さんと共に追求していきたいと思っております。



診療風景



トライアスロン(たかはらやま)

ドイツ歯科医師団体が当院を見学

平成27年5月29日(金)10時～12時30分の約2時間半にわたり、ドイツ歯科医師団体「ZAK Brandenburg」26名の施設見学が行われました。

宮崎歯学部長、槇病院長の挨拶に始まり、国際交流センター 橋本准教授、顎顔面口腔外科、補綴歯科、インプラント歯科、美容歯科、矯正歯科のプレゼンテーション後に、院内の見学を行い、教育用患者ロボット(昭和花子2)の説明に興味深く聞き入っていました。

事務課



教育用患者ロボット(昭和花子2)

昭和大学公開講座開催のお知らせ

第18回

昭和大学公開講座 「暮らしと健康」

昭和大学歯科病院では、皆様にお口の健康を保つのに役立てていただくため、公開講座を開催することに致しました。皆様のご参加をお待ちしております。

2015年 **7月11日** **土** 13:00-15:00

場所：昭和大学歯科病院 1号棟6階【臨床講堂】

第1部

13:00～14:00

「お口の中のがん治療ってどんななの？」

講師：嶋根 俊和 (昭和大学歯学部教授、昭和大学頭頸部腫瘍センター長)

第2部

14:00～15:00

「お口の清掃と全身のかかわり」

講師：木本 未 (昭和大学歯科病院歯科衛生室・歯科衛生士)

受講後、事前申込者には受講証を発行致します。

**参加費
無料**

(先着100名様)

歯科用品
プレゼント
あります!

主催：昭和大学・昭和大学歯科病院

後援：大田区

■受講申込 ※申込受付は6月からになります。

<直接お申込みいただく場合>

昭和大学歯科病院1Fロビー

(申込用紙に記載の上、備え付けのポストにお入れ下さい)

<メールでお申込みいただく場合>

件名を「公開講座受講希望」とし、氏名、住所、電話番号を入力の上、下記までお送りください。
dh-festa@ofc.showa-u.ac.jp



編集後記

じめじめした梅雨のシーズンがやってきました。高温多湿のこの時期はカンピロバクターやサルモネラなどいわゆる食中毒菌が繁殖しやすいので皆様注意しましょう。食中毒を予防するには食品を十分に加熱することが重要だといわれています。十分加熱した食品を健康な歯でバリバリ食べ、スタミナを蓄え、梅雨時期そしてそのあと訪れる猛暑のシーズンを元気に乗り越えましょう。

(K.T)

